

第159回（令和4年第1・第2四半期）  
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
  - 令和4年第1四半期…令和3年12月27日～令和4年3月27日  
(以下A、前年同時期を $\alpha$ とする)
  - 令和4年第2四半期…令和4年3月28日～令和4年6月26日  
(以下B、前年同時期を $\beta$ とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A)151件及び(B)171件 (( $\alpha$ )154件及び( $\beta$ )195件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A)52件及び(B)80件 (( $\alpha$ )76件及び( $\beta$ )74件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A)203件及び(B)251件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが(A)103件及び(B)119件  
(新規HIV感染者報告数の(A)約68%及び(B)約70%)
  - 異性間性的接触によるものが(A)27件及び(B)29件  
(新規HIV感染者報告数の(A)約18%及び(B)約17%)  
そのうち(A)は男性20件、女性7件 (B)は男性26件、女性3件
  - 静注薬物によるものは(A), (B)共に0件
  - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
  - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが(A)22件及び(B)38件  
(新規AIDS患者報告数の(A)約42%及び(B)約48%)
  - 異性間性的接触によるものが(A)13件及び(B)17件  
(新規AIDS患者報告数の(A)約25%及び(B)約21%)  
そのうち(A)は男性12件、女性1件 (B)は男性13、女性4件
  - 静注薬物によるものは(A), (B)共に0件
  - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
  - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和4年1月～6月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は(A)13,233件及び(B)16,863件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )12,836件及び( $\beta$ )13,839件)

<内訳>

- 保健所におけるHIV抗体検査件数は(A)6,737件及び(B)9,671件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )7,812件及び( $\beta$ )7,921件)
- 自治体を実施する保健所以外の検査件数は(A)6,496件及び(B)7,192件

- (前年同時期確定値( $\alpha$ ) 5,024 件及び( $\beta$ ) 5,918 件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 12,163 件 及び (B) 15,347 件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ ) 12,361 件及び( $\beta$ ) 13,647 件)

#### 【献血の概況（令和4年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,491,676 件（前年同時期 2,533,663 件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は 16 件（前年同時期 18 件）  
10 万件当たりの陽性件数（速報値）は、0,642 件（前年同時期 0.710 件）

#### 《まとめ》

1. 今回報告された新規HIV感染者報告数は、前年同時期に比べ、第1四半期、第2四半期共に減少した。新規AIDS患者報告数については、前年同時期に比べ、第1四半期は減少したが、第2四半期は増加した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規HIV感染者は20～40代、新規AIDS患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規HIV感染者が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第1四半期（+3%）、第2四半期（+22%）ともに増加した。また、保健所等における相談件数については前年同時期に比べ、第1四半期は減少し、第2四半期は増加した。
4. 新型コロナウイルス感染症の流行の影響による保健所等での検査控えがあることが予想されるが、早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、HIV感染リスクのある方は、今後も保健所等における無料・匿名の検査・相談を積極的に利用していただきたい。

## 《令和3年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は、令和3年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、742件（過去20年間で、18番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、315件（過去20年間で、19番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,057件（過去20年間で、18番目の報告数）

### 【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが531件（全HIV感染者報告数の約72%）
  - 異性間性的接触によるものが91件（全HIV感染者報告数の約12%）
  - 静注薬物によるものは0件
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが162件（全AIDS患者報告数の約51%）
  - 異性間性的接触によるものが53件（全AIDS患者報告数の約17%）
  - 静注薬物によるものは1件
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、30～50歳代が多い。

### 【検査・相談件数の概況（令和3年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は58,172件（過去20年間で、20番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は54,551件（過去20年間で、20番目の件数）

### 《まとめ》

1. 令和3年の新規HIV感染者報告数は、令和2年より減少しており、5年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血時のHIV抗体・核酸増検査における10万件当たりの陽性件数は令和2年と比べて減少した。依然、陽性件数があることを踏まえ、HIV感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査を御利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。AIDS発症防止のためには、HIV感染後の早期発見が重要である。新型コロナウイルス感染症の流行の影響による保健所等での検査控えがあることが予想されるが、HIV感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したHIV検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、AIDS発症防止のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的に御利用いただきたい。